

第2講

私の場所には意味がある 一室町幕府と守護の領国一
(2011 年度第2問)

つぎの表は、室町幕府が最も安定していた4代将軍足利義持の時期(1422年)における、鎌倉府の管轄および九州をのぞいた諸国の守護について、氏ごとにまとめたものである。この表を参考に、下の(1)・(2)の文章を読んで、下記の設問A～Cに答えなさい。

氏	国
赤松	播磨、美作、備前
一色	三河、若狭、丹後
今川	駿河
上杉	越後
大内	周防、長門
京極	山城、飛騨、出雲、隠岐
河野	伊予
斯波	尾張、遠江、越前
富樫	加賀
土岐	伊勢、美濃
畠山	河内、能登、越中、紀伊
細川	和泉、摂津、丹波、備中、淡路、阿波、讃岐、土佐
山名	但馬、因幡、伯耆、石見、備後、安芸
六角	近江

- (1) 南北朝の動乱がおさまったのち、応仁の乱まで、この表の諸国の守護は、原則として在京を義務づけられ、その一部は、幕府の運営や重要な政務の決定に参画した。一方、今川・上杉・大内の各氏は、在京を免除されることも多かった。
- (2) かつて幕府に反抗したこともあった大内氏は、この表の時期、弱体化していた九州探題渋川氏にかわって、九州の安定に貢献することを幕府から期待される存在になっていた。

設問

- A 幕府の運営や重要な政務の決定に参画した守護には、どのような共通点がみられるか。中央における職制上の地位にもふれながら、2行(90字)以内で述べなさい。
- B 今川・上杉・大内の各氏が、在京を免除されることが多かったのはなぜか。2行(90字)以内で説明しなさい。
- C 義持の時期における安定は、足利義満の守護に対する施策によって準備された面がある。その施策の内容を、1行(30字)以内で述べなさい。

次ページ以降の「問われている(求められている)ことを確認する」と「関連する教科書のページと内容」を記入した「謎解きのヒント」のページは、**8**ページです。

解いてみましょう（第2講）Aについて

1 問われている（求められている）ことを確認する。

ア について書く。

イ にもふれながら書く。

ウ 2行（60字）以内で書く。

2 アとイに関連する教科書のページと内容を確認する。

教科書の



3 の と該当する氏を確認する。

(1) 中央における職務上の地位は、 が交代で任命された

と、 の長官となる

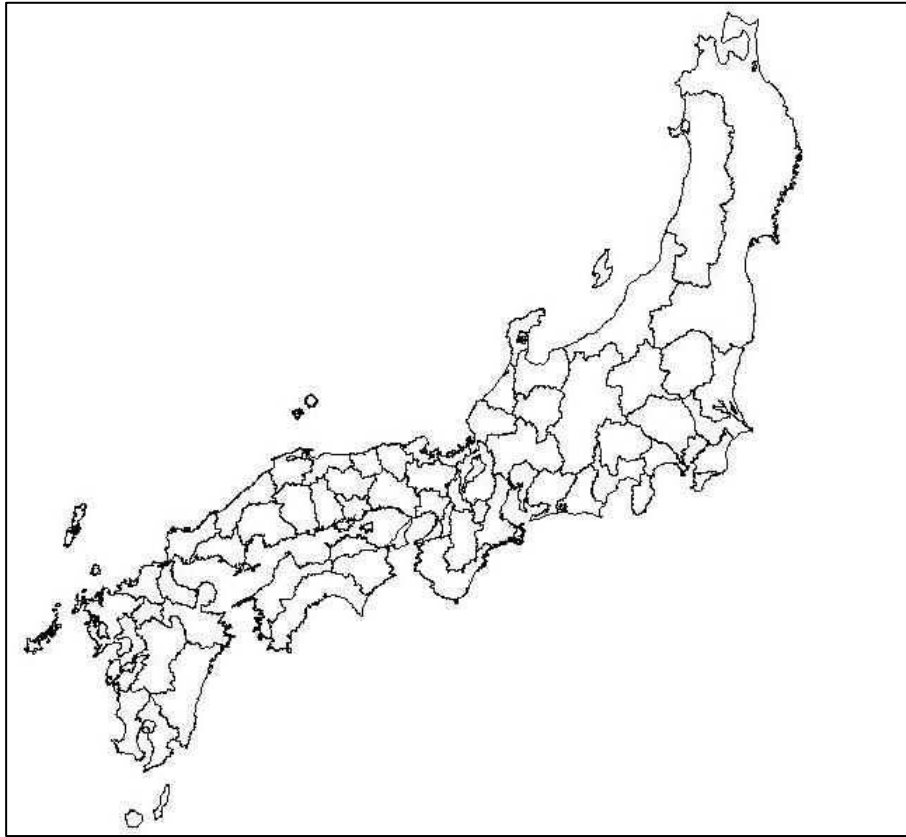
(2) 該当する氏は、

4

⑤

の領国を、地図で確認する。

※ 下の白地図（現在のもの）に、添付してある当時の国名が記されている地図（教科書の裏表紙）を参考にして、彼らの領国を色鉛筆等で塗ってください。



5 読み取れることをまとめる

①

が交代で任命された

②

や

③

の

長官となる

④

とよばれた有力守護の領国の数は

⑥

あって、場所には

⑦

が含まれている。

6 60字以内でまとめる

解いてみましょう（第2講）Bについて

1 問われている（求められている）ことを確認する。

ア

が イ

について書く。

ウ 2行（60字）以内で書く。

2

ア

に求められていた役割を考える

(1) 資料(2)に「大内氏は、この表の時期、弱体化していた九州探題渋川氏にかわって、九州の安定に貢献することを幕府から期待される存在になっていた。」とあることから、彼らが在京を免除されることが多かった理由は、

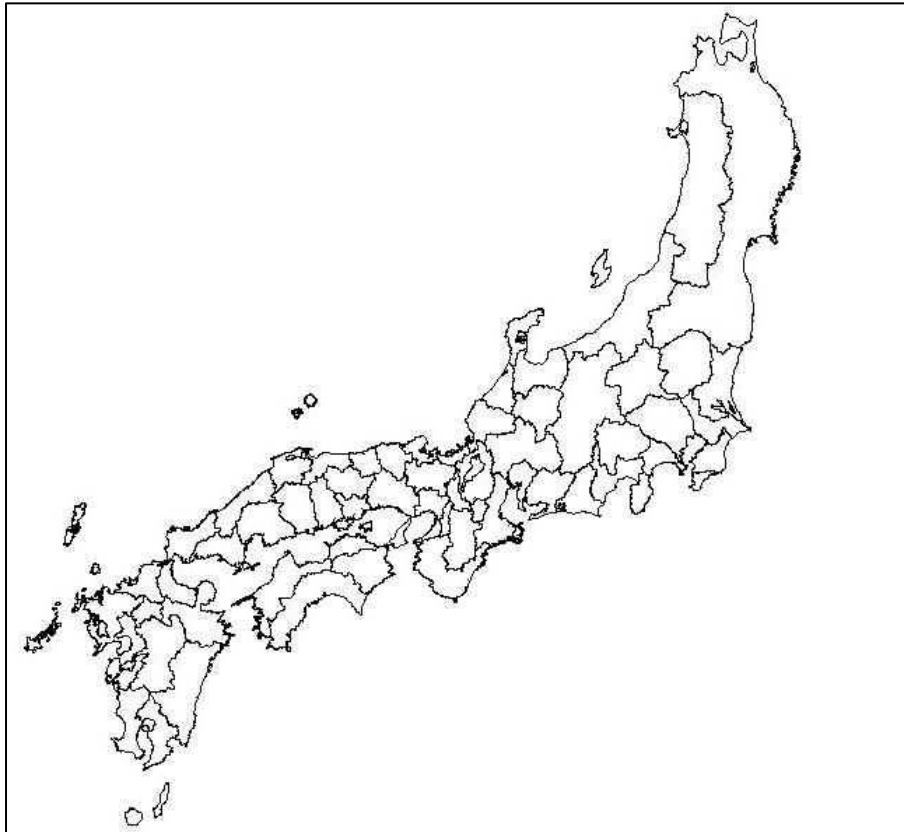
「〇〇の ① から」であると考えられる。

(2)

ア

の領国を地図で確認する。

※下の白地図（現在のもの）に、添付してある当時の国名が記されている地図（教科書の裏表紙）を参考にして、彼らの領国を色鉛筆等で塗ってください。



(3) 地図から、② 氏の領国は、九州＝③ の支配領域に④ ことがわかる。

3 今川・上杉氏の領国と接しているものを教科書から探る。

教科書の



(1) ⑤ は、強い権限を持ち、しばしば京都の幕府と衝突していたことがわかる。

(2) 6 ページの白地図に ⑤ の支配領域を塗ってみる。

4 読み取れることをまとめる

ア の領国は、

⑥

③

や

⑤

の支配領域と

④

ため、その地域の

①

から。

5 60 字以内でまとめる

解いてみましょう (第2講) Cについて

1 問われている (求められている) ことを確認する。

ア 義持の時期における安定の準備となった
について書く。

イ 1行 (30字) 以内で書く。

2 関連する教科書のページと内容を確認する。

教科書の



3 30字以内でまとめる

次のページは、「問われている (求められている) ことを確認する」と「関連する教科書のページと内容」が記された「謎解きのヒント」のページです。

【謎解きのヒント】

Aについて

1 問われている（求められている）ことを確認する。

ア 幕府の運営や重要な政務の決定に参画した守護の共通点 について書く。

イ 中央における職制上の地位 にもふれながら書く。

2 アとイに関連する教科書のページと内容を確認する。

教科書の 125 ページの 19 行目～126 ページの 6 行目

幕府の機構も、この時代にはほぼ整った。管領は将軍を補佐する中心的な職で、侍所・政所などの中央諸機関を統轄するとともに、諸国の守護に対する将軍の命令を伝達した。管領には足利氏一門の細川・斯波・畠山の3氏(三管領)が交代で任命された。京都内外の警備や刑事裁判をつかさどる侍所の長官(所司)も、赤松・一色・山名・京極の4氏(四職)から任命されるのが慣例であった。これらの有力守護は在京して重要政務を決定し、幕政の運営に当たった。

Bについて

1 問われている（求められている）ことを確認する。

ア 今川・上杉・大内の各氏 が イ 在京を免除されることが多かった理由

3 今川・上杉氏の領国と接しているものを教科書から探る。

教科書の 126 ページの 22 行目～127 ページの 1 行目及び脚注①

幕府の地方機関としては、鎌倉府(関東府)や九州探題などがあつた。足利尊氏は鎌倉幕府の基盤であつた関東をとくに重視し、その子足利基氏を鎌倉公方(関東公方)として鎌倉府を開かせ、東国の支配を任せた①。以後、鎌倉公方は基氏の子孫が受け継ぎ、鎌倉公方を補佐する関東管領は上杉氏が世襲した。鎌倉府の組織は幕府とほぼ同じで、権限も大きかつたため、やがて京都の幕府としばしば衝突するようになった。

脚注①：鎌倉府は、関東8カ国と伊豆・甲斐を、のちには陸奥・出羽の2カ国も支配した。また鎌倉府管内の守護は、鎌倉に邸宅をもち、鎌倉府に出仕した。

Cについて

2 関連する教科書のページと内容を確認する。

教科書の 124 ページの 10 行目～11 行目。125 ページの 12 行目～15 行目

南北朝の動乱も、尊氏の孫足利義満が3代将軍になる頃にはしだいにおさまり、幕府はようやく安定の時を迎えた。(略)義満は、動乱の中で強大となつた守護の統制をはかり、土岐氏・山名氏・大内氏などの外様の有力守護を攻め滅ぼして、その勢力の削減につとめた。

< エピソード「室町幕府はなぜ貨幣を鑄造しなかったのか」 >

江戸時代を舞台にした時代劇では、よく小判や銭が用いられるシーンがある。江戸時代は、貨幣が当たり前に使われていたことはイメージできると思う。

しかし、貨幣経済は、室町時代にはすでに浸透しており、年貢も貨幣で納められていた。にもかかわらず、幕府は貨幣を発行せず、明（中国）との貿易で入手した輸入銭を通貨として用いていた。室町時代は産業が著しく発展した時代でもあり、流通する貨幣量は不足傾向となった。そのため「私鑄銭（しちゅうせん）」とよばれる輸入銭のレプリカが登場した。現在の感覚で言えば「偽金」であるが、これも貨幣として利用された。私鑄銭には粗悪なものも多く、特にひどいものは「鋸銭（びたせん・びたぜに）」とよばれて嫌われたため、商取引に混乱を招いた。今でも時々耳にする「ビター文まけられません」の「ビタ」は「鋸銭」のビタである。通常の商取引では用いられない鋸銭一枚（銭1枚は一文の価値）でさえまけてやらないという意味である。

では、なぜ室町幕府は貨幣を発行しなかったのか。

室町幕府のキーワードは一言に尽きる。それは、

幕府権力が弱かった

である。幕府権力が弱かったから、主要鉱山を直轄できなかった。だから貨幣の鑄造に必要な金・銀・銅を入手できなかった。

幕府権力が弱かったから、直轄領が少なかった。だから、いろいろな税を課した。

幕府権力が弱かったから、有力守護との関係に苦慮した。そして、その梶取を誤ったことから、11年に及ぶ内乱、応仁の乱に突入したのである。応仁の乱は戦国時代の幕開けとなった。

豊臣政権や江戸幕府は、権力が強かった。だから主要鉱山を直轄し、貨幣を鑄造することができたのである。

まとめ

室町幕府は、幕府権力が弱く、強力な支配権を有していなかった。そのため

このことが、「室町幕府は有力守護との連合政権」とも称される理由である。

